

### —性的マイノリティをめぐる生活課題とHIV/AIDS—

担当教員: 加藤 慶 (人文学部 福祉文化学科 助教)

専門: 社会福祉学(ソーシャルワーク) 社会福祉士・精神保健福祉士  
修士(学術)横浜国立大学, 修士(社会福祉学)明治学院大学, 日本社会事業大学大学院  
博士課程等を経て、2018年4月より現職。性的マイノリティなど日本の社会福祉制度が  
対応していない制度の谷間にある課題や、当事者主体の社会サービス提供のあり方、  
地域を基盤とした予防に関する研究を行なっている。

論文に『沖縄県における男性同性愛者へのHIV感染予防介入に関する研究』  
(厚生労働省研究班エイズ対策研究事業・主任研究者 加藤慶)ほか



### (僕たちはこの島で生きている)

HIV発見当時、死の病とされましたが、今日では、医学の進歩により適切な治療を受け続けることで、「慢性病」化したといわれます。しかし、多くの社会的課題も残っているのが現状です。沖縄県内における感染動向は、2015年時点で新規HIV/AIDS報告者数が計27人で、人口10万人当たりではHIVが全国3番目、AIDSが2番目に多く、東京都や大阪府といった大都市圏に近似する高い数字となっています。感染経路として、男性同性間の性的接触によるものが7割以上を占めており、感染予防・早期発見・早期治療が重要となります。

HIV/AIDSは、性的マイノリティであることと密接な関係を有しており、本講義では当事者ゲストをお招きし、感染の背景にある当事者の生活課題や、沖縄県における感染予防の取り組みの現状・課題、HIV陽性者としての生活について考えます。

○2018年6月 4日(月) 14:40-16:10

#### 沖縄県におけるゲイの当事者の生活と予防の取り組み

玉城祐貴 nankr沖縄代表

沖縄で生まれ育ち、沖縄県内のゲイのHIV感染予防を行う当事者団体「nankr沖縄」の代表を務めています。ゲイ当事者としての立場から、厚生労働省委託事業「同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業」によるコミュニティセンターmabuiの運営や、学校などで性的マイノリティの理解促進を目的とした講演活動などを行っています。  
沖縄県立那覇国際高等学校、琉球大学教育学部卒業。



○2018年6月 11日(月) 14:40-16:10

#### HIV陽性者の生活課題と支援

高久陽介 特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス(JaNP+)代表理事

JaNP+は、HIV陽性者(感染がわかった人たち)が秘密を抱えることもなく、社会的な不利益を受けることもなく、HIV陽性者として、自立したあたりまえの生活ができる社会を目指して活動する団体です。HIV陽性者が中心となって、自らネットワークづくりや当事者の視点からの情報提供、社会への提言などの活動を行っています。高久氏は、2001年のHIV陽性判明をきっかけに、ゲイコミュニティでのHIVの予防啓発や陽性者支援などの活動にボランティアとして従事し、2014年より団体の代表を務めています。



【会場】 沖縄大学 2号館5階506教室 【聴講料】 無料(事前申込不要)

問い合わせ先: 〒902-8521 沖縄県那覇市宇国場555番地

沖縄大学 人文学部 福祉文化学科

社会福祉専攻 加藤 慶 研究室

Tel: 098-901-4063

Mail: k-kato@okinawa-u.ac.jp